第1章 歯科助手の役割

ここがポイント！

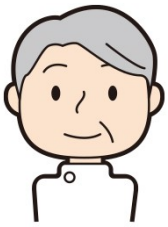
1．歯科助手は、診療室で術者と患者さんに接し、歯科診療が円滑に行われるように行動する重要な役割を担っています。

2．この章では、大まかな歯科医院の仕組みや患者さんとの接し方などを理解しましょう。

1 歯科医院の仕事分担

歯科診療が行われる場所は、歯科医院（歯科診療所）と病院歯科の２つに分けられます。一般的に皆さんが「歯医者さん」とよんでいる街の歯科医院が大半を占めます。一方、病院歯科は入院施設をもち、手術などを行える大学病院や口腔外科などです。

1）歯科医師（Doctor：Dr）



歯科医師の国家資格をもち、患者さんの治療にあたる先生のことです。

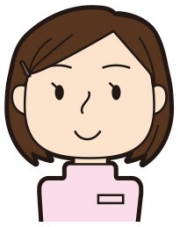
2）歯科衛生士（Dental Hygienist：DH）

歯科衛生士の国家資格をもち、歯科医師の指示に従って診療補助やう蝕（しょく）予防処置、また歯科保健指導などを行います。術者として直接患者さんの口腔内に触れる資格をもっています。

3）歯科技工士（Dental Technician：DT）

歯科技工士の国家資格をもち、義歯や歯の詰め物、かぶせる物などを製作する人です。

4）歯科助手（Dental Assistant：DA）



患者さんを直接診療する術者ではありませんが、術者を補助して診療が円滑に行えるようにさまざまな仕事をします。患者さんを誘導し、診療に必要な器材を整え、診療中は術者の介助、診療後はあと片付け、また消毒や滅菌などの作業を行います。さらに、待合室や診療室の整理や環境整備も歯科助手の仕事になります。

5）歯科受付（Dental Receptionist：DR）

患者さんの登録、受付、アポイントメント、金銭の取り扱いと管理など、診療所内の総務的な業務を行います。個人の歯科医院では歯科助手が兼務することもあります。

歯科用ピンセットのみ、歯周専門医では＋デンタルプローブ、修復・補綴歯科では＋咬合紙ホルダーなど）ことが多く、術者（歯科医師）により必要なものが異なるので、自医院の専門性などを考慮し、各医院の標準に従うことが重要です。

5 診療補助の実際

1）フォーハンドシステム

歯科診療では、術者（歯科医師や歯科衛生士）と介助者（アシスタント）のチームワークが大切となります。診療時に器具器材の受け渡し、バキューム操作等を、術者と介助者の４つの手で行い、能率的かつ正確に診療をすすめるためのテクニック、これをフォーハンドシステムといいます。

これは、術者と介助者の４つの手で能率的かつ患者さんにとって快適に診療をすすめる技術です。

図 2–4　フォーハンドシステム

（1）介助者の位置

- 介助者は患者さんを中心に、術者と向かい合った位置に立ちます。
- スツールを使用する場合は、術者より 15 cm 位高い位置にします。
- ライトの光をさえぎらないよう注意します。

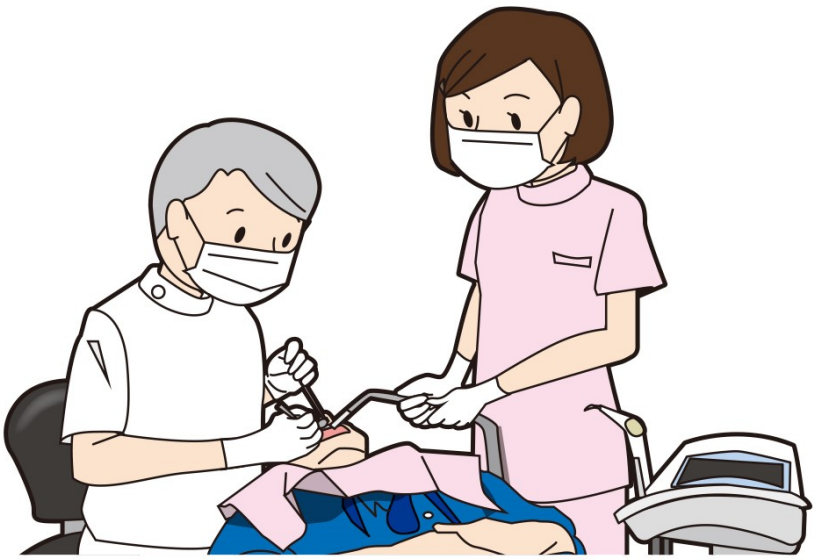


図 2–5　介助者の位置

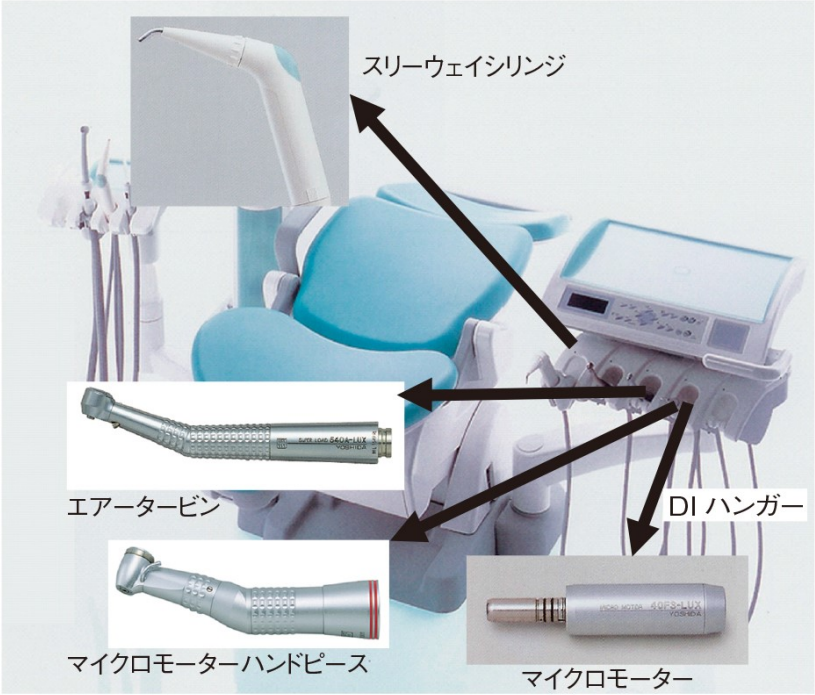


図 1–5　ダイナミックインスツルメントハンガーテーブル

・**スリーウェイシリンジ**：エアー（圧縮空気）・水・スプレーが出て、3 種類の使い方ができます。
・**エアータービン**：高速で回転して歯を削ります。駆動元は圧縮空気です。
・**マイクロモーターハンドピース**：回転速度設定できる回転切削器具です。
・**マイクロモーター（エンジン）**：マイクロモーターハンドピースの駆動元になる電気モーターです。

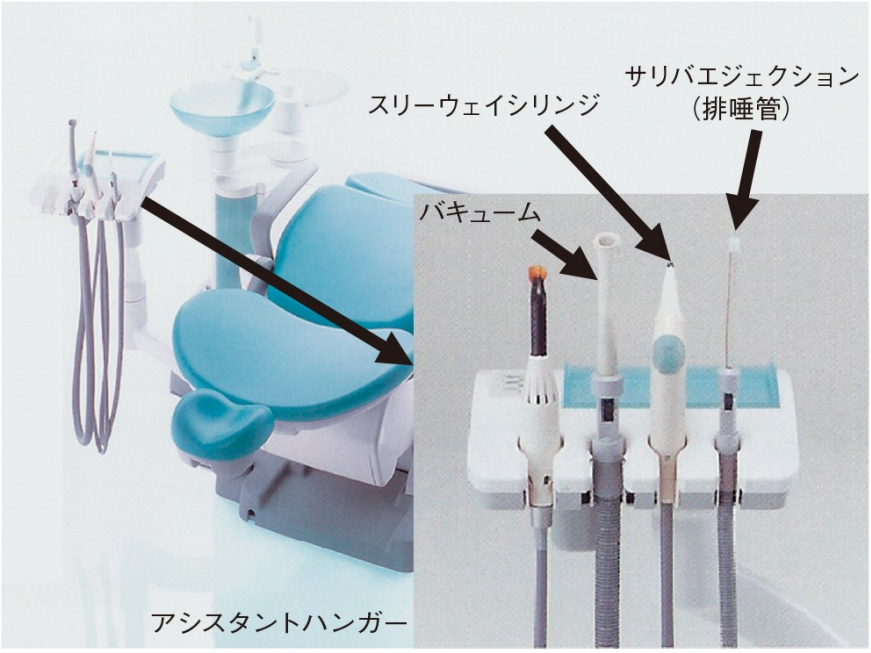


図 1–6　アシスタントハンガー

・**バキューム**：口腔内に溜まる唾液や切削時の水などを吸い取ります。
・**サリバエジェクション（排唾管）**：患者さんの口角に引っかけて持続的に唾液を吸引します。

5）歯科用 CT 撮影法（コンピュータ断層撮影法）

歯科用 CT では座ったまま撮影します。歯や骨の状態を三次元的に再現することができます。インプラントや外科手術時の診断、歯周病や骨の緻密度を調べることができます。最近ではソフトとの組み合わせにより、インプラントの埋入のシミュレーションに使われることが多くなってきています。

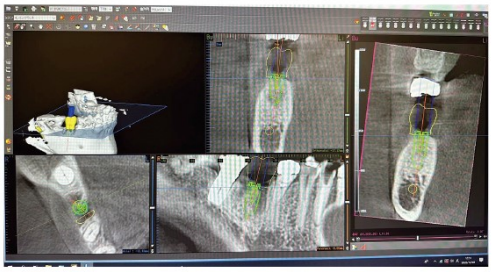
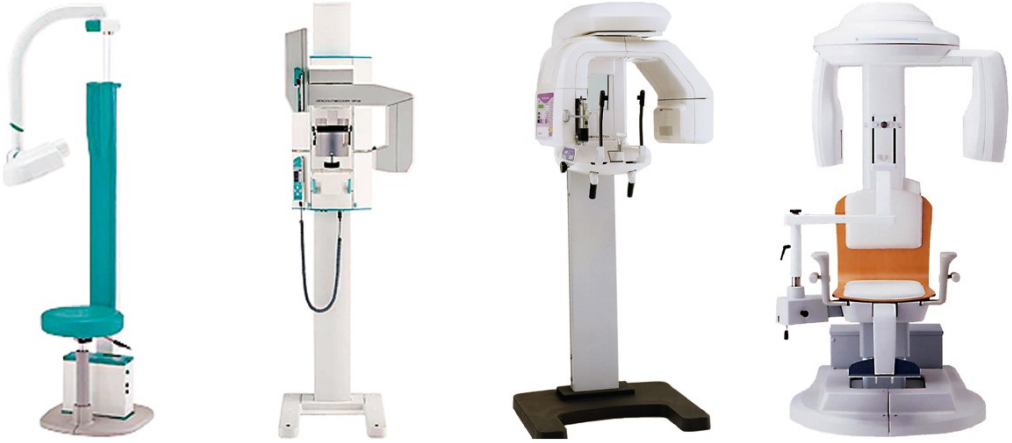


図 6–9　インプラントシミュレーション

4 撮影装置



デンタル X 線装置　パノラマ X 線装置　デジタル X 線装置　歯科用 CT 装置

図 6–10　撮影装置

5 X線フィルムの種類

1）デンタルフィルム

中が湿らないようにパックされた歯科用のフィルムで、口腔内に入れて撮影します。サイズは、3×4 cm の標準型と 2.4×3 cm の小児型や、5.7×7.6 cm の咬翼型があります。フィルムには表と裏があり、一般に白色の面や、ナンバーのある面、フィルムの隅に突起がある面が表になります。

図 6–11　標準型・小児用フィルムと保管箱

図 6–12　咬翼型フィルム